

元NHKのパイオニア
鈴木健二先生に学んだ・・・

《我が人生・晩節のリセット》

日常塾 4Aクラス

高瀬 一郎

岩戸神楽三十三座公演

大提灯づくり・・・昔ばなし

先生がNHKを退任され、熊本県立劇場館長としてご赴任されたのが三十余年前。先生は、まず県内を隅から隅まで巡回され、過疎化の実状に心を痛められました。そして、活性化の起爆剤として考えられたのが地域伝承芸能の復活。その一番手が波野／岩戸神楽の三十三座復元だったと思います。

満員の一昼夜公演は、スケール・内容に加えて、演者と観客の一体感、すべてに圧巻の舞台だったと、今も鮮明に憶えています。

先生の村おこしへかける情熱と行動力、加えて、文化振興基金への億を超える私財のご投入があつてこそその伝承芸能の復活だったと思います。

あの時代を契機に文楽・太鼓など、幾つもの伝承芸能が復元し根付いていることは、県民の一人として大へん嬉しいことです。今年も波野の神楽殿では、子供らを交えて佐藤勝

保存会長の陣頭指揮のもと定期公演が賑やかに続いています。

そして、テレビでしか拝見できなかった《鈴木健二さん》というスーパースターと直に接する機会に恵まれた熊本県民は幸せ者です。

先生の一挙手一動に、何か今までの熊本にない新しい風を感じながら、魂の奥底にある琴線に触れた人も多かつたはずで。

当時、私が所属していたボランティアグループ『熊本を明るくする会』のメンバー十三人も全く同じ気持ちになりました。先生のエネルギーに触発された我々は、何か少しでも、公演のお手伝いができないものかと集まり、知恵を出し合ったものです。

そして会議の末、公演する県劇の玄関前広場に、日本一大きい《回り灯籠付き・大提灯》をプレゼントしようということを決定的なものです。しかもそれは、自分たちの手造り作品を献上という話・・・今考えれば、全く無謀な素人の発想だったと思います。

幸い、素人集団には、澤治彦さんというクリエティブな造園デザイナーがいて、リーダー役をかってくれ推進力となりました。メンバーは、電器メーカー・道路舗装・洋服製造・写真家・グラフィックデザイナー・公務員・養蜂業・ミニコミ出版等など、異業種同志の構成でした。

そこで先ず始めたのが、八女市の提灯づくりの本場になにか修行に行くこと。そして、三メートル近くの高さがある大提灯を支えする木枠を本職に発注。次に、木枠に仮止めする竹ヒゴは一本の電気コードで代用することに決めました。ところがコードのビニールに和紙が付着し難いことが判りパニック状態。結局、百メートル近いコードに中五センチぐらいの和紙テープを巻き付け、接着性をよくすることにしました。この仕事は大へん時間がかかる作業でひと苦勞でした。電器メーカーの倉庫を借りてコードを張り巡らし、総動員で和紙巻きをしたものです。その時のチームワークのよさは、現在も信頼の仲間としてご縁が続いていて、本当に、先生の計算できない面白い繋がりを感じます。

師走に向う三か月間、工務店の天井が吹き抜けのスペースでの夜なべ仕事に皆が集まり、木枠組み・コード巻き・和紙貼り・木枠抜き・柿渋の塗布仕上げと、みんなで試行錯誤の末、どうにか制作することが出来ました。

メンバーには、商業書道家の中川道代さん（1B）も所属されて、力作の《岩戸神楽》の大きな題字とユーモラスな回り灯籠の影絵も完成。お陰で、素人仕事とはいえ最後は立派に雰囲気醸し出すことができました。寒風の中、県劇・渡辺事務局長立ち合いの上、大提灯を県劇玄関広場に奉納できた時は、

メンバー全員・ホツとし、感動の涙が滲み出てきました。ボランティア冥利に尽きる一瞬だったかもしれません。

大提灯は、現在も、波野の神楽殿に古色蒼然と歴史的雰囲気を保ちながら健在です



先生主宰の日常塾で学んだ

『常にテーマを持つ生き方』

それから一年後、一浪(最初の選考に落選)の末、入ったのが日常塾。戦中・戦後の激動期に育った私にとって、日常塾で学んだ人生哲学の基本・奥義の数々は、他人様にも自慢できる大学の修士課程のようなものです。晩節の今考えても、生涯のベストスリーに選べる幸運な出来事と言えるでしょう。

週一回・約四時間、三か月の教科書のない授業は、とてもシンプルで感嘆・感動・納得のゴールデンタイムでした。何が出てくるやら・見当もつかない衝撃的出来事の連続。そしていつか急に・・・悟りに似たような瞬間が訪れて幕だったような気がします。

先生は、いつも優しい言葉でみなに質問されています。私たちが聞きかじりの知識で受け答えしたら・・・とことん厳しく本質を追究されていました。明確に、自分の本心・本音で答えられない限り、たとえ正解?でも絶対に納得されなかったような気がします。

特に、いろんなマスコミの情報解釈について、先生がよく言われたことは『自分はどう考えるか・・・自分はどうか行動するか。』常に自問自答しなさい。そして、事象を傍観者の的に批評するのではなく『自分ならばどうす

る・・・どうした。自分には何が出来るか。』という観点が重要だと。この教えは、その後の私の大切な価値判断と行動規範になっています。とにかく恥も外聞もなく、自身の人間性をさらけ出すまで鍛えられたような気がします。それだけに、最初は緊張と面食らいの連続でした。

塾には、年齢、性別、職業、思想、信条を超越した真剣勝負のような張り詰めた空気がありました。いつも、緊張と笑い・感動の絶えない受講風景だったこと・・・今も映像として鮮烈に浮かび上がります。



授業の大部分は教えを受けたというよりも、むしろ、優しくヒントを示され、悟るような心境でこれからの人生行路の指針を授かったことが多かったと思います。そして、

二十二名のクラスメートの間には、何かしら不思議な連帯感も自然に生まれました。すでに、鬼籍に入られた方も五名。その方々の想い出も、今なお消えずに記憶の中で生きています。

先生より授かった多くの教訓は、未だ充分に消化できていないとは思いますが、最近、一つだけ嬉しいことに気付きました。自分の深層心理の中に『テーマを持ち続ける癖』が習性になっていくことです。好奇心の強い性質の私は、そのテーマも多く、中途半端で終わっていました。最近、テーマの結果が出るまで粘り強く楽しむ癖がついたようです。・・・ありがたいことです。

話は少し横道に反れますが、二年前、私は昭和二十八年から保持している運転免許証の更新日でした。最近、交通事故・多発傾向の高齢者（七十五才以上）には予備テストがあります。認知症や運転技能の事前確認などが義務付けられ厳しくなっています。

私も、白内障で衰えた視力を手術で回復し、無事切り換えることが出来ました。緊張した認知症テストも九十八点と高得点でパスし、以来三年間・九十二才までは運転できる資格を戴きました。

免許センターの講師の言によれば、交通事故の三要素とは『認識・判断・操作』の三通りらしく、**認識・判断ミス**が高齢者・事故要

因の**九十%**を超えるケースとか。鈍くなった運動神経・操作性と思っていた点を反省し、**認識・判断**を改め直しています。

晩節を生きる

チャレンジテーマと今後の目標

最後に、今までチャレンジしてきたテーマと、その推移。そして、今後の新しい目標などをご披露し、私の近況報告に代えさせていただきます。

私は、五十台半ばより還暦を人生大学卒業の日と決めていました。六十才になったら、染みついた価値観・固定概念・習慣などを総点検し、一度リセットしてみたい。という願いもあり、六十才の定年時、ツアーではない全くのインド独り旅を目論んでいました。

平成四年・還暦を迎え、遂に計画実行の年となります。先生にそのことをご相談したことがあります。先生は、『インドでは高い山に登り、きれいな星空を眺めてきなさい。』と、ひと言アドバイスされました。その時は、その深い意味も分からず聞き流していたような気がします。

その年の十一月下旬、晩秋の熊本からリュックを背負って福岡空港まで高速バスに乗り、私の人生大学卒業の記念旅行を始めたの

です。福岡空港⇄シンガポール⇄マドラスまではシンガポール航空のリザーブが出来ていましたが、それから先は現地対応・添乗員のない独り旅です。

妻には『ツアーだから心配ないよ。』と安心させ、子供らには真相を打ち明け『万一の場合は、お母さんを頼むね。』と言つての旅立ちでした。そのせいか、留守中は、毎日のように関東エリアにいる三人の子供たちから電話があつていました。今考えれば、全く危なっかしい自己本位の無謀な行動だつたと思ひ返しています。

珍道中は、幾多のハプニングと笑タイムの連続。インド古来の思想《創造・維持・破壊》の言葉通り、とても刺激的なりセットの旅となりました。あれから三十二年余り、やっと、あの時の行動が計測未知な心のゆとりというか、晩節を支える大きな力になっていることは確かなようです。

とにかく、空港や税関などでは、探し易く付箋を付けた英語の本で間に合うものの、一般会話は大へんでした。尋ねることは、お手本通りで曲がりなりにも相手に意思が伝わりますが、返事してくれる英会話がチンプンカンプンで聴き取れません。その上、飛行機は定刻出発は皆無に等しく、三回に一度は欠航騒ぎのとんだ冒険旅行でした。

面白かったのは、言葉でのコミュニケーション

ヨンが充分機能しない時は、よくしたもので周囲を見渡す眼力が鳥の目のように鋭くなってきました。今まで何気なく見過ごしていたヒト・モノ・動物・自然の佇まいまでが、明確な情報として見てとれるから不思議です。深夜についたマドラスでは、満室のホテルで仮設ベッドを借りて眠れぬ一夜を過ごし、翌朝、空路でバンガロールへ。そして、英国風なアンバサダーという古びたガソリンの凸凹道を南へ四時間半・払った料金はたったの二五〇〇円。やっと着いたのが、目的地のプッタパルティという標高七〇〇mくらいの村です。

人生60年のリセット／インド独り旅



そこは、世界の宗教家たちより畏敬の念で

受け入れられているインドのアバター・・・シユリ・サティア・サイババのマンデル（住居）がある聖地です。折柄、十一月二十三日は導師の誕生日ということもあって、村は、世界各地からの訪問者で十万人くらいに膨れ上がり、ごった返していました。当初、飛び入りのため断られた入村手続きも、片言の英語で、すったもんだの交渉の末、やっと許されました。倉庫の一角に一坪くらいのスペースを与えられ、寝具・マット・蚊帳をレンタルし、インドでの新（珍）生活がスタート。日本での暮らしと全く違うインドのカルチャーショックは、右脳か左脳かわからないところで脳波が騒ぐ感じでした。

還暦＝人生大学卒業 ・インド独り旅。



ホーク・スプーンの代わりに右手の3本指

で食べるカレー料理。その妙なる食感には、最初、違和感を覚えました。四、五日経ったら馴染むものです。

箸やスプーンを使って食べた日本では、好き勝手に旨い・不味い、グルメだ・何だと、料理の出来栄をを批評していた気分が一切消えました。ただ、生きるために餌（エサ）を食（ハ）んでいる感覚になりました。そして、どういう訳か、突然、満腹感になるのも今までにない体験です。

また、洋式便所にトイレットペーパーがないのにも面食いました。普段、ペーパーがセツトしてあるところに蛇口があり、その下に空瓶が一本置いてあるのです。多分、人工のウォッシュレットだろうと解釈し用足しを完了。最初は、お尻の排泄物の手掴み感が、カレー料理を食べるときの感触とダブって嫌なものでした。しかし、慣れとは怖いもの、数日後には肛門の皺シワ感が健康度チェックの快感に変わるから面白いものです。

毎日、真つ暗な早朝に起床し、サイババのダルシヤン（祝福）会場に並ぶのですが、その時の夜明け前の空模様の変化は圧巻です。東方の黒い濃紺色の空が少しずつ薄くなり、パッと・・・一瞬に寒色のピンク色に変わります。その時、一斉に小鳥たちが大合唱・歓喜横溢に囀り出す光景は、極楽か天国にいるような賑やかさです。

(多分、太陽の出現とともに植物の光合成が始まり、放出した酸素で小鳥たちが目覚めるのかも知れませんが・・・?)



そして、夜は、黒い山影の見える天空から・ド・ドツ・ドツと・大きな流星が滑り落ちるような天体ショーに何度も遭遇しました。

先生のアドバイス通り、日本ではとてもお目にかかれない感動の至福タイムです。

今回の独り旅は、サイババの誕生祭参加が主ということもあり、ゴルフで言えば、ホールインワン(約八万分の一の確率)のような奇跡が十数回ありました。しかし、とても興味本位に話せるようなことでもありませんので割愛します。

さて、インド独り旅のリセット効果は、果たしてどうだったのか。これからだと思いますが、願望が信念に変わり、徐々にその実現の数と幅が広がっているには感じます。昭和の終わり、永年の天職・メンズファットシヨン業界を離れ、苦労の真最中にスタートした『パワーアップの研究』もその一つです。その研究は、自分の心の中では理論的にも完成をみていたのですが、人様に説明する言話力・文章力に乏しく停滞していました。そんな時期、日常塾で文章作りの基本を学んだことは、私にとって正にタイムリーでした。



平成七年、『パワーアップの秘訣』として、曲がりなりにも本を出版できたのも、日常塾で学んだ成果の一つです。先生に、温かい巻頭言を戴いたお陰で、本の品格は数十倍跳ね

上がったようで、それから三回も再版を重ねる勢いが出ました。

また、この研究は、いろんな業界・団体・クラブ・学校・アスリートなどへの講演活動の種となり、お呼びがかかるようになりました。これも偏に、日常塾で話し方の基礎を学び、鍛えられた賜物です。



さらに、平成十年からは、親友のお誘いで転職した環境ベンチャーでナノバブル(超微細な気泡)の発生装置開発とその応用技術の研究に携わる機会を頂きました。この技術は、農業・水産・畜産・環境・食品加工・代替医療・洗浄・省エネなど多方面に利用され出しています。お陰で後期高齢者として隠居することもなく、晩年を楽しく・有意義に過ごす

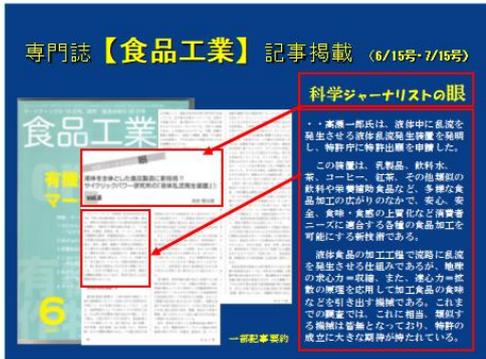
チャンスを戴き、感謝！感謝！の日々です。そして、平成二十年・喜寿を迎えたのを期に会社勤めを退き、それからの十年間は、フリーで大学・企業との共同研究に参加し、さらに、性能のよいナノバブル発生装置の新機種開発にも成功。新たに、国内特許の他、米国・中国・韓国の特許も取得できました。



さらに、山奥の溪流の水の美味しさにヒントを得て、平成二十年から個人的に始めていた乱流発生メカニズムと制御・活用法の研究で乱流発生用チップやパイプを発明。五件の意匠登録も認可されました。

この発明は、食品添加物や保鮮剤を使用しない物理的技法で液体食品の上質化と鮮度保持に道を開く新技術だと評価され、業界専門誌『食品工業』誌に二回取材記事が掲載さ

れました。現在、福岡の友人の会社で商品化が進んでいます。



五年前、数え年八十八才の米寿を通過し、今年、結婚生活も六十四周年目。その間、二十一回の転居・二十一業種の職歴（アルバイト一回もなし）・見習いから社長業までの

職階を体験。山あり・谷多き人生行路でしたが、これも修行の機会に恵まれた豊かな人生だったと思えば、一気に幸せ感が噴き出てきます・・・ものは考えようです。

次なるテーマとしては、四才からの稀有な体験・感動・教訓・失敗と成功のエキスなどの記憶を整理し終わったところです。連想式記憶術に基づき『ラッキョの恥ずかしい思い出』『あの世になかった地獄』『失敗は未来を拓く宝物』・・・など。それぞれの記憶の出来事に特異な見出しを付けて整理したところ・その数は一〇八項目になりました。自動車免許を返納する九十歳台には、六百ページくらいのエッセイ集にまとめ、発刊したいと思っています。

鈴木先生と出会えたお陰で『我が人生・晩節のリセット』がスムーズに進展しました。太平洋で一本の針を発見したような幸運に感謝し、弟子（自称）として、師の教えに恥じない生涯をおくりたいと思っています。最後に、先生の九十五歳・天寿全うを心から感謝の一念でお見送りし、理天・極楽への安らかな旅路をご祈念申し上げます。

「故鈴木健二先生を偲ぶ会」
令和六年五月十四日
合掌
（熊本市・メルパルクにて）